

地域ネットワークニュース

～平成30年9月の勉強会のお知らせ & 8月の勉強会報告～

第248回 地域ネットワーク勉強会

保健所のひきこもり相談・家族教室の取り組みについて

講師：茨城県潮来保健所 保健指導課 係長 野澤由美子氏(保健師)
ひきこもり家族教室 はっぴー三水会 アドバイザー高橋真理子氏
(全国webカウンセリング協議会茨城支部 めだかの学校代表)

9月26日(水)
午後7時～9時
神栖市保健・福祉会館
別館2階 会議室B

テーマ「ひきこもり」の3回連続講座(8～10月)の2回目の講座です。

今回は、ひきこもりに特化した専門的な第一次相談窓口である茨城県ひきこもり相談支援センター(水戸市)の川崎相談員から、ひきこもりとなる背景や相談から支援までの流れ、当事者に対する家族の関わり方のポイントについてお話しをいただきました。

今回は、潮来保健所が開設している①保健師が随時対応するひきこもり相談と②医師による専門相談(月1回、要予約)の相談支援体制について、また③カウンセラーがアドバイザーとして参加するひきこもり親の会「家族教室」についてお話しいただきます。

個別に対応する相談室とあわせて、ひきこもりの問題を抱えるご家族が集まる家族教室では、それぞれの近況について情報交換ができ、その場でカウンセラーからアドバイスもいただける形となっています。

ひきこもりの当事者やそのご家族、支援機関の方など、ひきこもりについて関心のある方々の参加をお待ちしています。



会場内には情報提供・紹介コーナーを設けています。福祉や医療に関する事業所等のパンフレットやチラシ、研修会のご案内など、配布、展示いたします。当日のご持参でもかまいません。みなさまからの情報をお待ちしています。申込・問合せ先 神栖市社協 地域福祉推進センター 担当 名雪・鴨川 電話 0299-93-0294

第247回 地域ネットワーク勉強会報告

8月20日開催 参加者23名

引きこもり ～本人へのかかわり方と家族にできること～

講師：講師：茨城県精神保健福祉センター
相談援助課 主任 川崎智佳氏

ひきこもりの背景には、学校や職場、家庭などの環境によるストレス、対人関係、登校や就労に意味を見いだせない多様な価値観によるものなど、その理由は多岐にわたります。

家族は、本来であれば「学校に行く年齢なのに」「働く年齢なのに」と、焦りや不安を感じていますが、それは本人も同じで、恐れや緊張、居心地の悪さを抱いており、家族に対して斜に構えた態度や攻撃的な態度をとってしまうのは、他者への不信感や不安の裏返しの場合があります。

そのため、家族や支援者が、本人の不安を軽減し、自分を理解してくれていると思える関わりができることで、本人が自分の思いを表出できるような変化がみられることがあります。

「家族や支援者が本人の気持ちを受け止める→ 本人と希望・目標を共有する→ 支援プログラム(就労支援等)にチャレンジする→ 成功体験を積み重ねて自己肯定感を高める→ 社会参加に繋がる」といったステップを本人が踏めるよう、家族や支援者が、一緒に目標に向けて伴走していくことが大切ということをお伝えいただきました。

